

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

iNPH と AD におけるアミロイド蓄積の異同

脳機能画像診断開発部 病態画像研究室

文堂 昌彦 室長

平成26年11月13日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

β アミロイドは髄液を介して排出されるために、髄液ターンオーバーの低下する水頭症ではアミロイド蓄積が起こりやすいのではないかという議論がある。かつてはアルツハイマー病（AD）や軽症認知障害に髄液シャント手術を施行し効果を検討する試みが成された。その試みは成功せず、水頭症とアミロイド蓄積との関連性については否定的な流れになった。しかし、最近でも髄液シャント前後における脳脊髄液中アミロイドの変化から、水頭症における脳脊髄液貯留と脳内アミロイド代謝の関連性を示唆する報告もなされている。果たして水頭症とアミロイド蓄積の間には、加齢やADにおけるものとは異なる特別な関係が存在しているのだろうか。我々はこれまでに特発性正常圧水頭症（iNPH）におけるアミロイド蓄積とその影響について研究を続けてきた。

今回は過去の研究から得られた、アミロイド蓄積の頻度、分布、髄液中濃度、臨床症状やシャント手術効果への影響、アポE4発現率などに関する結果を踏まえ、アミロイド蓄積に関するiNPHとADとの共通点と相違点を検討し、水頭症とアミロイド蓄積との関連性、およびiNPHにおけるアミロイド蓄積の意味について考察をおこなう。